

# なきごえ



1977

10

大阪市  
天王寺動物園協会



## 動物と私

「子供ごころ」

高木正邦

朝の目覚めに聞く鳥の声は人の気持ちを爽快にさせる。夜明けの空はガラス越しに見ると青い色が一層きれいに見える。その様な時、鶏の声が聞えて来ると気持ちのいいものである。



食糧事情が悪い頃、家庭で鶏がよく飼われていた。私の家にもその当時、ナゴヤコーチン、ブリマウスロック、レグホン等が居た。永く飼っていると鶏と雖も家族の一員の様になり、親しみが湧いてくるものである。姿や形に特徴が見られるだけでなく、顔や仕種にも個性がある。始終、巢籠りばかりして何かぶつぶつ不平そうな声を出している婆さん顔のナゴヤコーチンがいた。又雌鶏のくせに鶏冠が立派で体も大きく、脊すじをのぼしていばって歩くレグホンは餌の取り合いにもしたたかな所を見せた。鶏にも美人が居る。丸くふくよかで性格も女性らしく卵をよく生むのであった。私達は1羽ごとに渾名をつけていたが呼んでも犬の様な反応はなかった。

生きているものはみな美しい。それがよくわかるのは魚である。堀や池の水は樋が抜かれるとだんだん少くなり、しまいに水の通る道の様なものに底に出来る。大人達が魚を取ったあと、水が澄みだすと残った鮒が体を横にして浅い所を上手に泳いで行く

### なきごえ10月号もくじ

動物と私	2
“ピューマの赤ちゃん”	3
動物園グラフ(特集:猛獣脱走対策訓練)	4・5
黒ひょうの人工哺育	6・7・8
冠島上陸記	9
キジの仲間—雷鳥について	10
動物園ニュース	11

ことがある。太陽に照らされてうろこが輝くのを見ていると、ぞくぞくとして来るのであった。

夏になり、池の水温があがって来ると魚達はあつぷあつぷしだして弱いものから死んで行く。子連れの雷魚はいちはやくどこかへ姿を隠すが、腹を横にして動かないものもある。

うろこの色が薄れているものは見込みがないが、深みのあるものはまだ生きている希望が持てる。土手の上から石を投げて、魚達の水に揺ぐ様子で生きているか死んでいるかを判定する事が出来る。網ですくって来て生き返へらす為に冷水をたらいに入れて、水道水をそそいだり、手で水を動かしたりして元気をつけようとするのである。かまどの煤を飲ませると効き目があることを父から教わった。

横になって苦しそうにしていた鮒や鯉が、黒い脊を立て出す時、子供心に何とも言へない感動が湧いて来るのであった。子供の頃、あれ程とりたかったのは、近くの堀や池が禁猟区や養魚池であったりして自由に入出入りする事を禁じられていた事にもよるが、それにもまして心をひきつけていたものは自然のもつ神秘的なもの、美しいものや勇ましいものへの憧れであった。こう言っでは何だが私達は鮒や蛙をほとんど尊敬の念に近い気持ちで眺めていたのである。

それは現代の子供達のスーパー・カーを見つめる心と全く同じである。

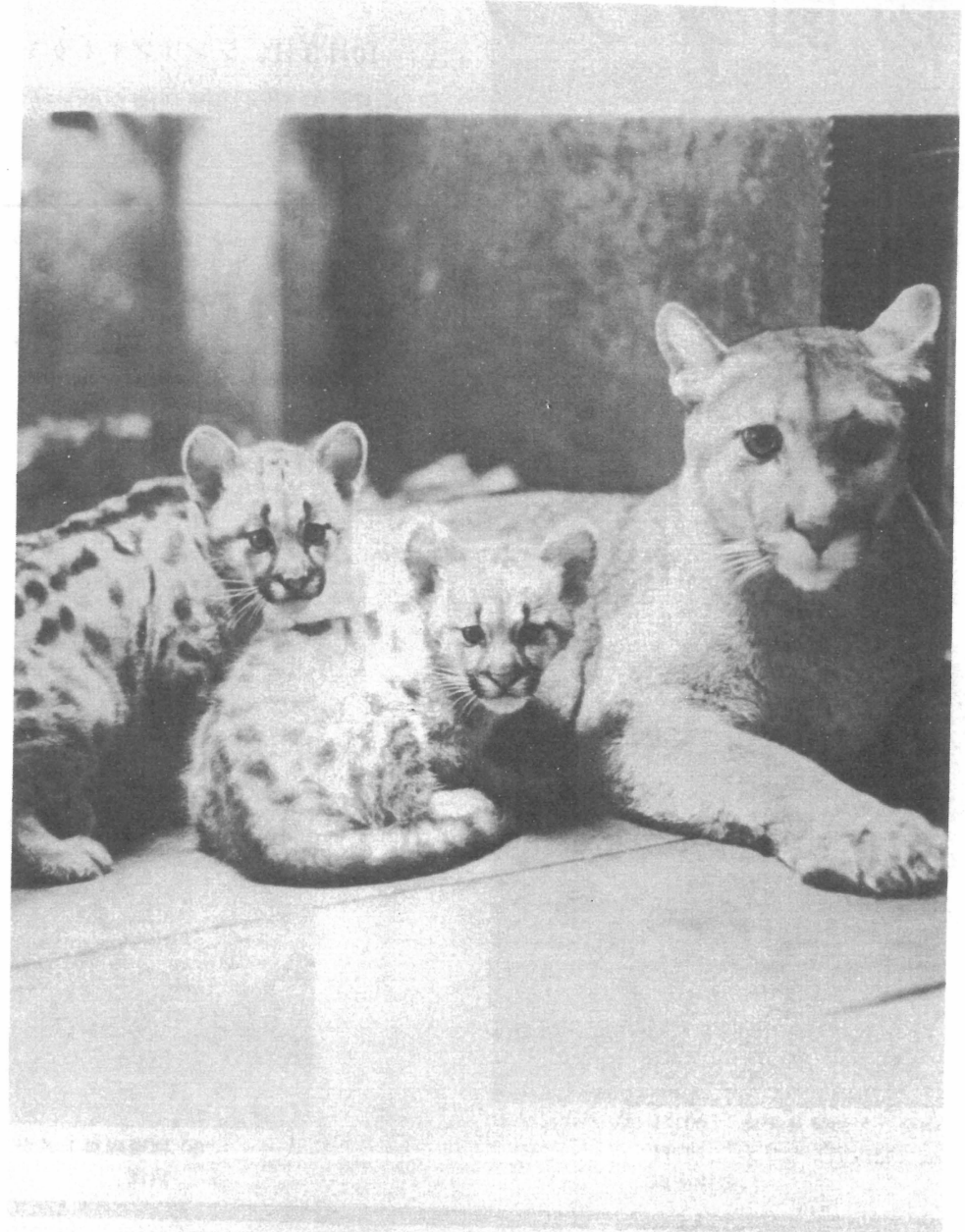
(大阪歯科大学講師)

### 表紙の写真説明

“ライオン”

百獣の王にふさわしく、堂々とした立派なたてがみを持ったオスのライオンです。秋の陽ざしを浴びながら、ゆったりとくつろいでいます。

(撮影:宮下 実)



### “ピューマの赤ちゃん”

8月21日に生まれたピューマの赤ちゃんです。2頭共元気よく育っており、10月からは運動場にも出す予定ですので、入園者の方々にもご覧いただけるでしょう。

(撮影:宮下 実)

# 動物園グラフ

## 特集：猛獣脱走対策訓練

10月3日、シンリンオオカミ脱走との想定のもとに避難、捕獲訓練を実施しました。当日警察、消防署の協力も得て、シンリンオオカミに見立てたシェパードの脱走から捕獲までの様子グラフで特集してみました。

(撮影：管理課、伊藤)

午前10時40分、中獣舎での事故を知らせる非常警報がなり、非常事態発生。



① 10:45、東門付近で入園者1名がおそわれ負傷。



② 10:50、オオカミはカモ池方面に逃走中。



③ 捕獲隊員1名がオオカミにおそわれ負傷。



④ 捕獲班の包囲体制。



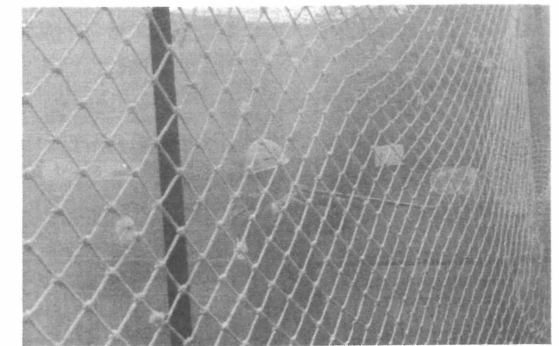
⑤ 10:55、包囲陣を破ってハ虫類舎方面に移動中。



⑥ 中獣舎前に包囲網を作り、そこへ追いこむ。



⑦ 周囲に煙幕をはり、封じこめ作戦。



⑧ 11:00、麻酔銃発射！命中。  
11:05、オオカミは麻酔にかかり、寝室収容。

## 8・9月の動物園日記

- 8/13. キングペンギンがやや食欲不振なので薬を与えました。
- 14. タイハクオウムの寄贈がありました。
- 16. クロエリハクチョウが元気を失くしているので薬を与えました。
- 17. フンボルトペンギンが出血性の十二指腸炎で死亡しました。
- 18. オオヨロイトカゲが食欲不振でしたので注射をしてやりました。

- 20. ニホンシカのメスが子宮内膜炎のため死亡しました。
- 21. 食欲不振だったキングペンギンがすっかり元気になりました。ピューマが2頭出産しました。
- 23. サル島の改修工事が始まりました。ビントロングの爪が伸び過ぎていたので短かく切ってやりました。
- 25. ハナジカの仔が生まれました。
- 27. 食欲不振のオオヨロイトカゲがすっかり元気になりました。

- 29. ニホンキジのオスが肝臓瘍のため死亡しました。
- 9/3. アカゲザルとジェフロイクモザルの寄贈がありました。
- 4. アグーチが3頭、トカラヤギが1頭の仔を生みました。
- 5. ライオンが回虫をわかしていたので駆虫してやりました。
- 6. 元気を失くしていたクロエリハクチョウのメスが治療のかいあってすっかり元気になりました。

- 10. ブタのメスが耳をケガしていたので治療してやりました。
- 14. キョンの赤ん坊が1頭生まれました。
- 19. 去年生まれのオオゾルが左足を脱臼してしまったので治療してやりました。
- 20. 気の上炎のためコブハクチョウが死亡しました。  
新しくなったサル島に大きなプールを作ってやりました。

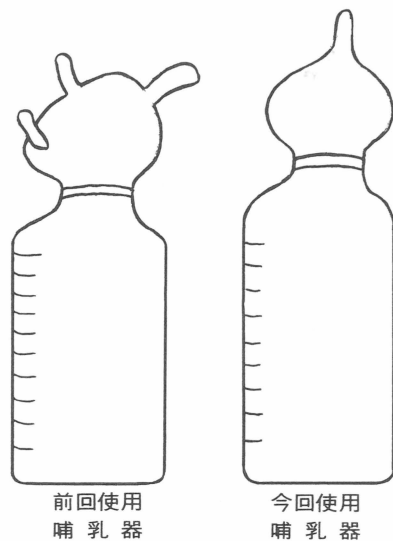
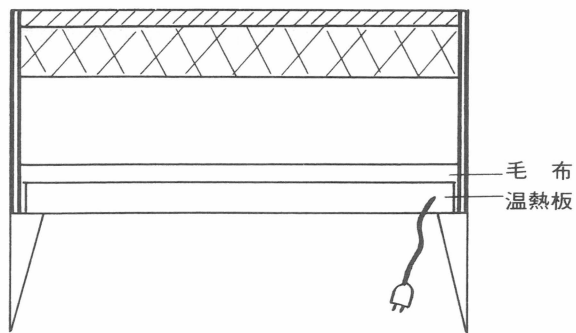
# 黒ひょうの人工哺育

三浦正明

6月13日の朝、くろひょうが、2頭出産しました。寝室には出産予定日の1週間前から、部屋を暗くして収容していました。親は懸命に育児をしていましたので、安心していましたが、生后5日目に1頭が死亡しているのを発見しました。解剖の結果、十分に乳を飲んでいない事がわかりました。仔が発育するにつれて哺乳量が増えていくのに親は、十分に泌乳していません。出産当初は2頭の仔が哺乳するのに必要な量は泌乳していましたが、だんだん仔の哺乳量が増えていくのに、泌乳量は増していかないので、弱い仔が先に死亡したのでしょう。このまま親に付けていても死亡してしまいますので引き取る事にしました。体重を測定すると515グラムありました。

早速哺乳する事にし、ミルクは市販されている犬用人工ミルクを使用する事にしました。温湯100ccに人工ミルク12グラムの割合で哺乳する事にしました。哺乳器は犬用のものを使用しました。5日間、母乳を飲んでいたので人工乳では、味がちがうのと、人工の哺乳器の感触がちがうので、吸いませんでした。強制的に仔の口の中へ流しこみました。2~3日もすると、なれたのか、自分で懸命に哺乳器から、吸うようになりました。哺乳回数は1日6回、哺乳時間は8時、10時、12時、14時、16時、18時でした。1回の哺乳に要する時間は約30分かかりました。吸いついても、すぐに乳首を口から出して、遊ぶ事が多く、哺乳には苦勞しました。哺乳の時など、私の手を鋭い爪で、ひっかきながら吸っていました。少しでも動く哺乳を嫌い、乳がひえてくると飲みません。

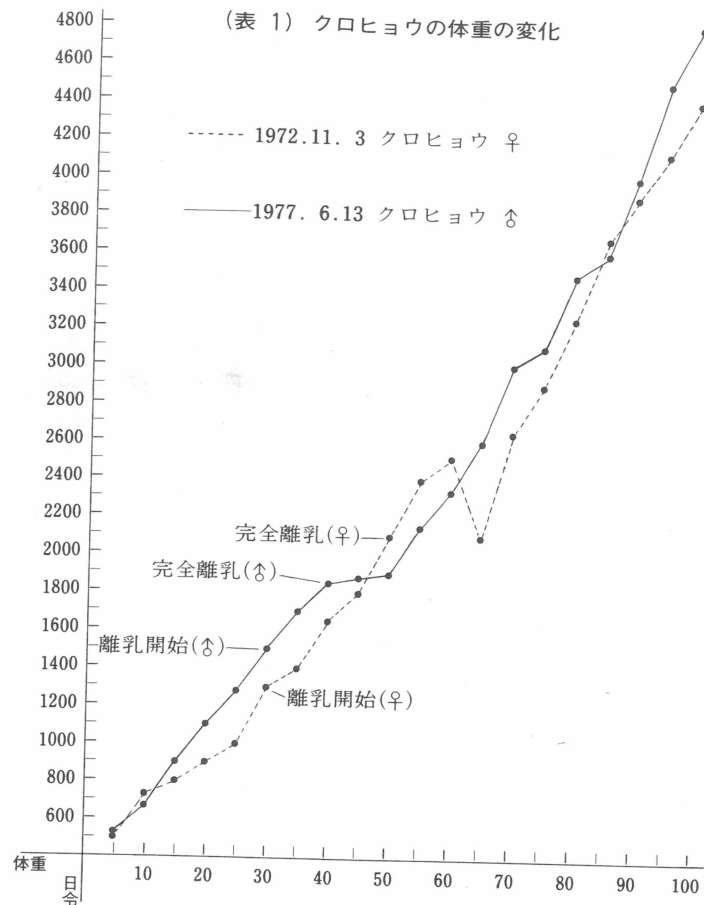
(図1) 簡易保育箱(断面図)



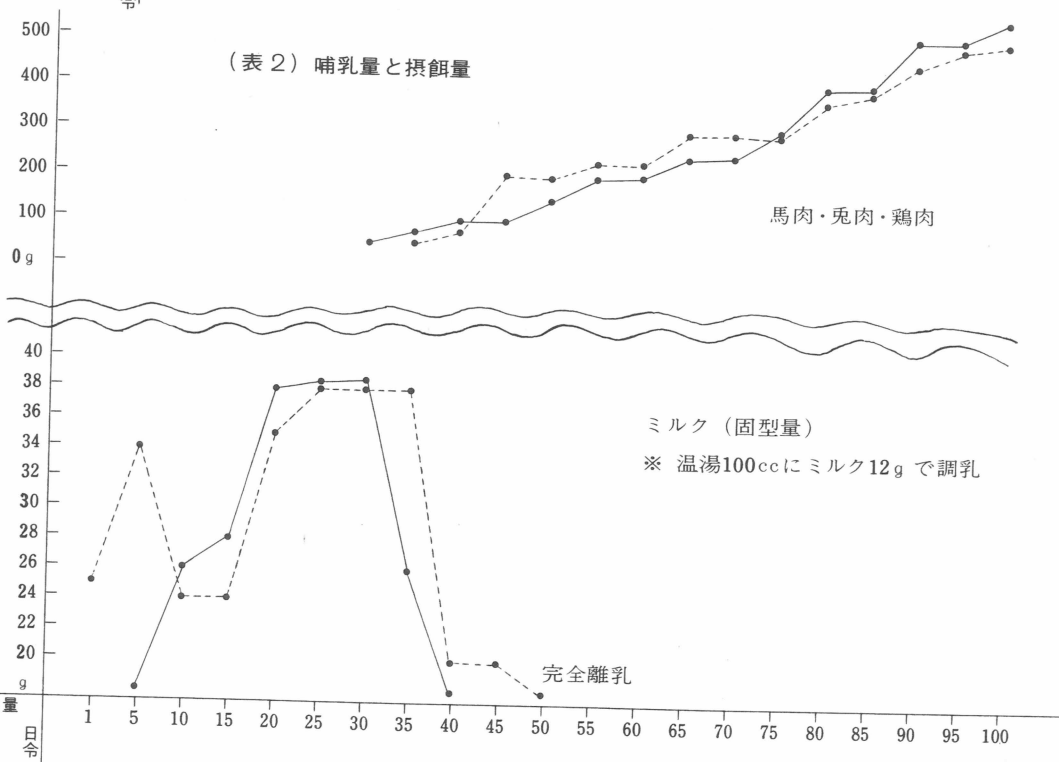
生后30日目頃までは順調に体重も増していましたが、この頃になると歯もはえ揃って、ものをかじるようになりました。離乳期が近づいているためです。哺乳も嫌い乳首をかんで遊んでいました。そんな時、鋭い犬歯で乳首が破れました。すぐ、同じサイズの乳首が有りましたので、約1時間位熱湯で煮て柔らかくしました。しかし、感触が違うのか吸いません。空腹になれば、吸うだろうと待っていましたが、いくら空腹になっても吸いません。離乳にはまだ早いのですが、馬肉をミンチにして、1グラム位の団子だんごにして強制的に口の中へ入れました。ミルクは皿に入れておきましたが、飲むとしませんので、スポイドで少しずつ流しこみました。スポイドで与える量は少しですので、獣医師と相談、カテーテルで胃内へ強制的に哺乳する事にしました。1回50cc、1日4回、1週間位しましたが、この頃には保定して、カテーテルを食道から胃内へ入れるのを嫌い、カテーテルを見ただけで、神経便をするようになり、体重も増えませんので、カテーテルによる強制哺乳を中止する事にし、完全離乳には20日位早いのですが、止むなく離乳する事にしました。馬肉のミンチを1日100グラム~150グラムを5~6回に分けて、強制的に口の中へ入れました。便は不消化便をしていましたが1週間位もすると、馬肉ミンチを消化、吸収して体重も増えてきました。

今は体重も5キログラム位有り、兔肉、鶏肉、馬肉を1日500グラム食べています。

(表1) クロヒョウの体重の変化



(表2) 哺乳量と摂餌量







↑① 生後10日目  
ミルクを一生けん命吸っているところです。



↑④ 生後60日目  
木登りも得意なもの。



↑② 生後25日目  
抱っこするとネコの赤ちゃんみたいです。



↑⑤ 生後60日目  
園内を散歩させても子供たちの人気もの。



↑⑥ 生後70日目  
少しずつヒョウらしくなってきました。地面に伏せて何かを見つけたようです。



↑③ 生後40日目  
じゃれてすぐ足に跳びかかってきます。



↑⑦ 生後70日目  
担当の三浦さんと日光浴です。

## 冠島上陸記

長瀬 健二郎

### § はじめに

秋もしだいに深まってきました。肌をくすぐるそよ風が冬の到来を予感させます。

毎年、この頃になると、多い時には、1日に5本位も、こんな電話がかかってきます。

「もしもし、天王寺動物園ですか？」

「はい、そうです」

「今朝、起きて庭に出たら、鳥が座り込んでいたんですが」

「ええ。で、どんな鳥ですか？」

「体は黒っぽくて、頭は灰色がかった白。クチバシがワシみたいで、鳩の3倍位もある大きな鳥なんですけど……」

「ああ、オオミズナギドリですねえ」

「やっぱり、ワシの仲間ですか？」

「いえいえ、アホウドリの仲間ですよ」

その年に生まれたヒナのうち、弱いものが、南方に渡る時、こうやって落ちて、みなさんを驚かせる、といった次第です。実際は鳩の倍位なのですが、こわいと思ってみると、実物よりずっと大きく見えるのでしよう。

若狭湾に浮かぶ無人島、「冠島」は、このオオミズナギドリの繁殖地として天然記念物に指定されています。毎年数回、環境庁の委託で山階鳥類研究所や日本野鳥の会、京都支部の人達が、この島に渡って、この鳥のさまざまな調査をするのですが、8月29、30、31日と私もこの調査班に便乗して、冠島に上陸しました。この時の印象記を今月と来月の2回にわたって御紹介しようと思います。

### § 出発

京都を朝の5時30分に出、舞鶴に着いたのが8時30分。舞鶴港では、私達を冠島まで送り届ける為、海上自衛隊、舞鶴警備隊の曳船「YT45」号が待機していました。研究器材、3日分の食糧、水などの荷物を積み込み、9時に出航です。1行は32名、内18名が2泊3日島に泊りこんで、オオミズナギドリの調査をしました。この日は雲が多く、山々は雲でおぼろにしか見えません。日光も殆んど射さず、ドンヨリと暗く、水もない無人島での3日間の生活を暗示するかのような湿っぽい天候です。しかし、幸い波はおだやかでした。100tのYT45は時速8ノ

ットといったゆっくりとしたスピードで静かに進みます。港に多いウミネコやカモメが船の前や後を横切って行きます。湾内の小さな島、蛇島ではクロサギやアオサギも見かけられました。少し沖合に出るとウミネコとは少しちがう鳥が目に入りました。翼が細くて長く、体も大き目です。かなりのスピードで波頭すれすれに飛んで行きました。胸がドキリとしました。これが今回の調査対象、オオミズナギドリだったのです。海面をなぐようにして飛ぶのでこの名がついたと言われます。今まで動物園に保護されてきた100羽近くのオオミズナギドリを見ていますが、それらは何か不格好な鳥でした。しかし、こうやって飛んでいる姿は実にスマートです。殆んどはばたきもせず、風に乗って時速60km位で、スーッと行ってしまいました。これが最初の出会いです。

### § オオミズナギドリと冠島

オオミズナギドリは海洋鳥と呼ばれる鳥のひとつです。海洋鳥とは長距離を飛ぶのが得意で、繁殖期以外は陸に近寄らずに大洋で生活する鳥です。長い距離を飛ぶため、グライダーのような細く長い翼で風に乗れ、体力を消耗しないようにあまりはばたかずに滑空するのが上手です。

島が見えるまでの間、今回の調査隊の隊長をしてられる吉田直敏さんに色々とうかがいました。吉田さんは上陸回数70回以上の大ベテランです。

冠島は舞鶴の北方28kmにある原生林のびっしり生い茂った無人島で、周囲4km、面積22.3ha、そして最高峰169m。遠くから見ると冠のように見えるのでこの名が付いたそうです。オオミズナギドリは2月下旬、南方から帰ってきて、6月下旬に産卵。そして10、11月頃またフィリピン辺りにまで越冬の為、渡るそうです。現在、この島に帰ってくるオオミズナギドリは実に17万羽と見積られているそうです。

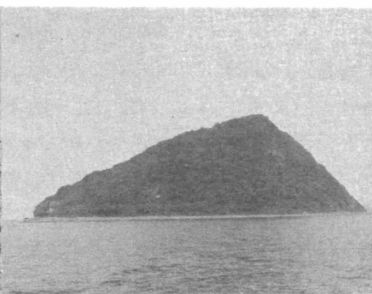
かなり近付いては来たものの雲にかすんでよく見えなかった冠島が、突然やって来た時間によって、くっきりとその全貌をあらわしました。急峻な山に原生林が生い茂った、正に緑の冠です。どんよりとたれこめていた雲も急に去って行き、辺りの水はキラキラと照りつける晩夏の太陽のもと、紫色といったもよいような色に変わりました。

島の30m程手前でYT45は停止し、私達は伝馬船で、島に上陸を始めました。

(つづく)  
(飼育課：獣医師)



群がって採餌するオオミズナギドリ



若狭湾に浮かぶ無人島、冠島

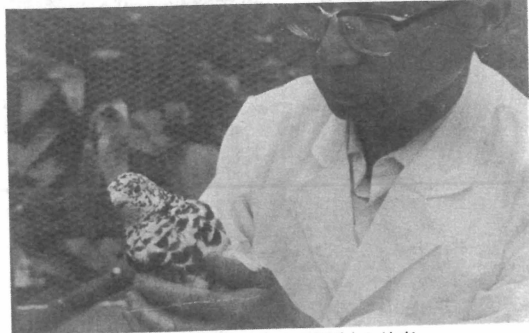


岩の上で休息するオオミズナギドリ



## キジの仲間—雷鳥について

仲田 幸男



尾白雷鳥(ロッキー山脈産)と筆者

雷鳥は高山に棲息し、一般世間から何か神秘的な鳥の様に考えられていますが、身近かで飼ってみても、又学術的に見ても魅力ある鳥で、雷鳥こそ百千鳥の王だと考えられます。

雷鳥は雉科の鳥ですが、鼻孔迄羽がある事と脚が低い事で区別されて、別の大きい亜科を形成しています。全部で18種類ありまして、ユーラシア大陸に11種類と北米に7種類います。又年中褐色で羽色をかえない物と、冬、純白に変るものが3種類います。此の3種とはカラフト雷鳥、雷鳥及び尾白雷鳥で氷河時代の遺物として北半球のすべてにわたってアルプスとかツンドラ地帯に分布しています。しばしば森林限界以北に棲息するのですが、その一つのカラフト雷鳥はアラスカ、カナダ、スカンジナビヤ、フィンランド、ソ連の全土を通じた広い地域を占めており、戦前の日本の樺太にもいます。次に雷鳥はカナダ、スカンジナビヤ、スコットランド、北ユーラシアに生存しており、又グリーンランドからアイスランドの大抵の場所にいます。日本アルプスに数百羽遺留しているものは此の亜種です。絶滅に近づいていて保護がやかましく叫ばれている事は皆様ご承知の通りです。此の雷鳥はスイスやスペインにも分布しており、カラフト雷鳥と共に高い樹のないツンドラ地帯にいます。第三の尾白雷鳥は厳密に北米にのみ生存し、岬々たるアラスカの高処、ニューメキシコ、コロラドなどにいて他の二種の雷鳥とは食物とか心臓に特異な処があつて神秘とされています。しかし、元来雷鳥はアジア起源のものと言われていいます。又イギリスの北部及びアイルランドの荒地にいるアカライチョウは最近の研究でカラフト雷鳥の一種だと云われていますが、これは棲息地が年中殆んど雪が降らず、羽色も年中赤褐色で変化しません。次に年中羽色をかえない雷鳥について説明しま

しょう。これは14種類ありますが、前述の雷鳥が目方が300グラムから500グラム位でウズラより少し大きい鳥ですが、此の雷鳥の最大のものに七面鳥の大きさのオオライチョウがいます。これはスカンジナビヤとシベリヤの針葉樹林におり、またヨーロッパ各地に分布しています。雄は黒い尾羽を扇状に立て、空を仰いでのディスプレイは特異です。此の種雷鳥はすべて繁殖期に尾羽を扇状に立ててのディスプレイは他鳥に見られない見事さがあり、又恋の歌を歌います。又ソウゲンライチョウやオナガラライチョウ、セイジライチョウ等は尾を扇状に立てる外に頸から紫或は黄色の空気袋をふくらませて裸出し1マイルにも聞こえる遠雷の音を聞くような特異な音を出します。北米の常緑の針葉樹林で山で働く人々に広く知られていますものにエリマキ雷鳥があります。此の雷鳥は冬期だけ足指にスノーシューズと云われていますくし状突起が出て雪上を歩き易くします。4月初め頃に此の雷鳥の太鼓を打つ様な高い音が聞かれるのはアラスカ内陸における春の最初の徴候なのです。此の音は鳴き声でなく、おわん状にくぼませたつばさを下、前、さらに上方の空中へ速く動かす事によって発するものである事が解っています。



尾白雷鳥(アラスカ、キーナイ半島産:筆者遠征捕獲)

他にクロ雷鳥、ハリモミ雷鳥などがあります。エリマキ雷鳥とオナガ雷鳥は禽舎内量産が可能で、既に猟鳥として扱われています。

雷鳥の食物は植物性で新芽、若枝、漿果、花が主ですが、繁殖期だけは極北の寒地にも昆虫が発生し、昆虫を食する事によって卵は有精となり、又雛は無事に生長する事が出来るのです。筆者は尾白雷鳥、ハリモミ雷鳥、オナガ雷鳥、エリマキ雷鳥等を飼つて上述の事象を実際に禽舎で観察する事が出来ました。(筆者:日本雉水鳥協会理事長)

## 動物園ニュース

### ☆ピューマの出産

8月21日、ピューマが2頭生まれました。母親はこれが3度目のおめでたで、うまく仔を育てています。仔はうす茶色の地に黒い



第1室は肉食動物、第2室は果実食の動物、第3、第4室は草食動物、第5室はいろいろなエサを食べる



# 夢が広がるショッピング... 近鉄がお届けします



上本町店 (06) 779-1231



アベノ店 (06) 624-1111



奈良店 (0742) 33-1111

## 近鉄百貨店

改装なったサル島はブランコや古木、プールなどを新たに設け、サル達も元気よく走り回っています。

### ☆動物たちのたべもの展

北園展示館で10月1日～11月15日の期間、動物たちのたべもの展が開催されています。これは動物園で飼育している代表的な動物を30種類選び、その献立、実物模型、1日の食費などが展示してあり、動物たちの食生活の内容が分るしくみです。

いが贈られて ベニジュケイ  
来る予定です。チンパンジーの発送は10月24日の予定です。

### ◎お知らせ◎

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。年内の休園日は下記の通りです。  
11月21日、12月19日、12月29～31日(年末休園)  
開園時間は9時半～5時で、4時半に切符売止めになります。



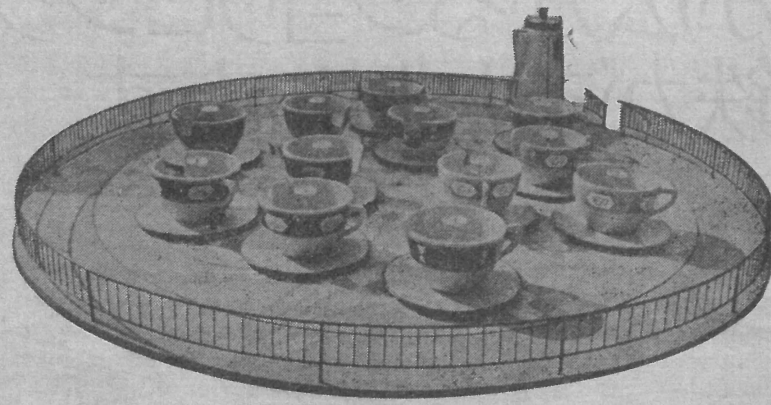
## キジの仲間—雷鳥について

仲田 幸男



しょう。これは14種類ありますが、前述の雷鳥が目方が300グラムから500グラム位でウズラより少し大きい鳥ですが、此の雷鳥の最大のものに七面鳥の大きさのオオライチョウがいます。これはスカンジナビヤとシベリヤの針葉樹林にあり、またヨーロッパ各地に分布しています。雄は黒い尾羽を扇状に立て、

## 遊園施設委託経営・製作・販売



## 久竹 娯楽 株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40  
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

のみ生存し、岬々たるアラスカの高処、ニューメキシコ、コロラドなどにいて他の二種の雷鳥とは食物とか心臓に特異な処があって神秘とされています。しかし、元来雷鳥はアジア起源のものと云われています。又イギリスの北部及びアイルランドの荒地にいるアカライチョウは最近の研究でカラフト雷鳥の一種だと云われていますが、これは棲息地が年中殆んど雪が降らず、羽色も年中赤褐色で変化しません。次ぎに年中羽色をかえない雷鳥について説明しま

われています。

雷鳥の食物は植物性で新芽、若枝、漿果、花が主ですが、繁殖期だけは極北の寒地にも昆虫が発生し、昆虫を食する事によって卵は有精となり、又雛は無事に生長する事が出来るのです。筆者は尾白雷鳥、ハリモミ雷鳥、オナガ雷鳥、エリマキ雷鳥等を飼って上述の事象を実際に禽舎で観察する事が出来ました。(筆者：日本雑水鳥協会理事長)

## 動物園ニュース

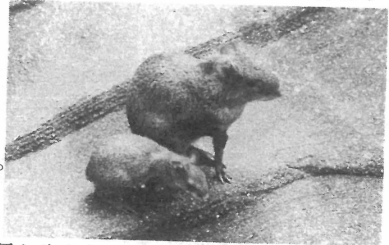
### ☆ピューマの出産

8月21日、ピューマが2頭生まれました。母親はこれが3度目のおめでたで、うまく仔を育てています。仔はうす茶色の地に、黒い斑点があって非常にかわいらしく、10月早々には運動場に出して、入園者の方たちにもお目見得できることでしょう。



### ☆アグーチの誕生

9月4日、アグーチが2頭生まれました。アグーチというのは南アメリカに分布するネズミに近い動物ですが、体長は50~60cm位あり、生まれた仔はすでに眼もあいて毛も十分はえそろっていて、すぐに歩き回れるのが特徴です。昭和49年に2頭、50年に3頭、51年に4頭と生まれており、繁殖も順調です。



### ☆動物愛護週間

9月20日~26日の動物愛護週間にちなみ、いろいろな催物が開かれました。初日の9月20日は北京動物園から贈られたタンチョウとモウコレイヨウ繁殖を祝って好物のさし入れがあり、又、児童動物画並びに動物標語入選作品展を開きました。9月23日には、過去1年間死亡した動物の霊を慰める動物総合感謝祭が行われました。期間中、動物健康無料相談所も開設され好評を博しました。

### ☆サル島改修工事完了

8年23日から改修工事を進めていたニホンザルのサル島の改修工事が9月22日完工し、翌々日、日本モンキーセンターから譲り受けたニホンザル20頭を放飼しました。改装なったサル島はブランコや古木、プールなどを新たに設け、サル達も元気よく走り回っています。



### ☆動物たちのたべもの展

北園展示館で10月1日~11月15日の期間、動物たちのたべもの展が開催されています。これは動物園で飼育している代表的な動物を30種類選び、その献立、実物模型、1日の食費などが展示してあり、動物たちの食生活の内容が分るしくみです。

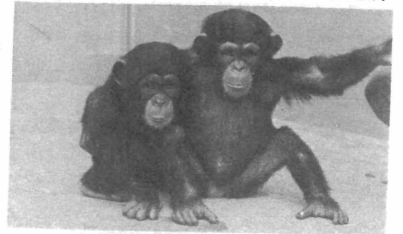
第1室は肉食動物、第2室は果実食の動物、第3、第4室は草食動物、第5室はいろいろなエサを食べる動物、第6室は鳥たちの食べるいろいろなエサと5つの区分があり、又、人間とゾウの1日に飲む水の量の比較などもあります。

### ☆ボイラーの火入れ式

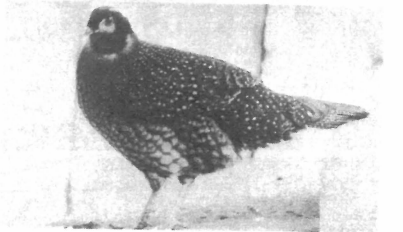
これから寒さにむかいますが、寒さに弱い動物達が暖かく過ごせるように、暖房のためのボイラーの火入れ式を10月1日行いました。オランウータのサツキちゃんが点火棒に火をつけてボイラーの点火を行い、さっそく一番寒さに弱いハ虫類舎に暖房をいれました。寒くなるにつれて順次、カバ舎、ゴリラ舎、類人猿舎、小鳥舎などに暖房を入れる予定です。

### ☆上海市との動物交換

昭和49年に大阪市と中国・上海市の友好都市提携を記念して、親善動物交換を行いました。今年が3周年をむかえて、第2次の動物交換を行うことになりました。大阪市からはチンパンジー1つが贈り、上海市からは珍しいキジの一種のベニジュケイ2つが贈られて来る予定です。チンパンジーの発送は10月24日の予定です。



贈られるチンパンジー



ベニジュケイ

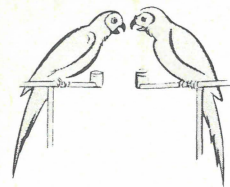
### ◎お知らせ◎

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。年内の休園日は下記の通りです。  
11月21日、12月19日、12月29~31日(年末休園)  
開園時間は9時半~5時で、4時半に切符売止めになります。



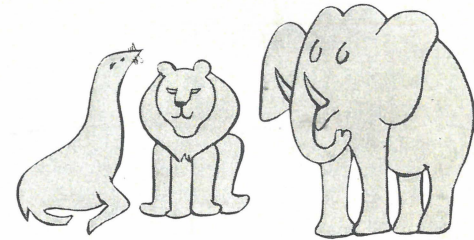
なきごえ 昭和52年10月15日発行(毎月1回15日発行) 第13巻第10号(通巻146号)  
 〒543 大阪市天王寺区玉水町2  
 電話 大阪 (06)771-0201  
 振替口座 大阪 37823  
 1年継続(12部)1,100円(送料共)

編集/大阪市天王寺動物園  
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳  
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517  
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



# 雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員 < 小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三 >  
 石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明